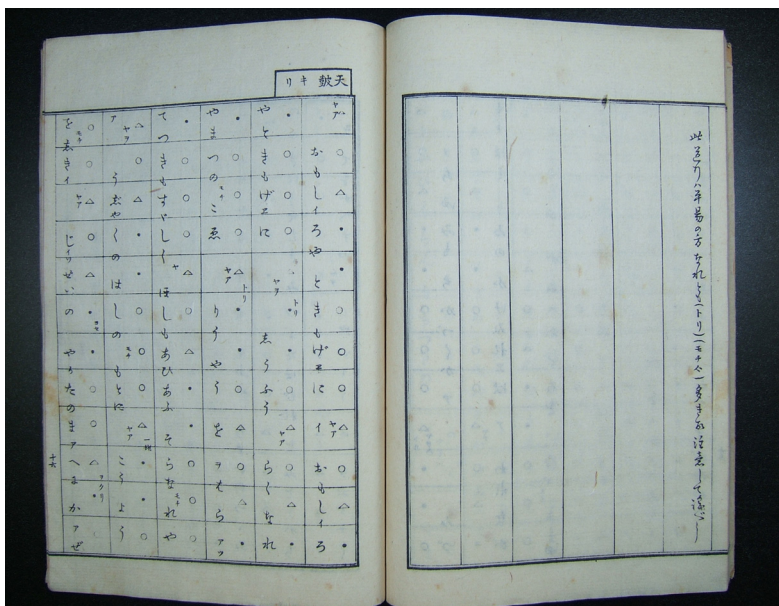
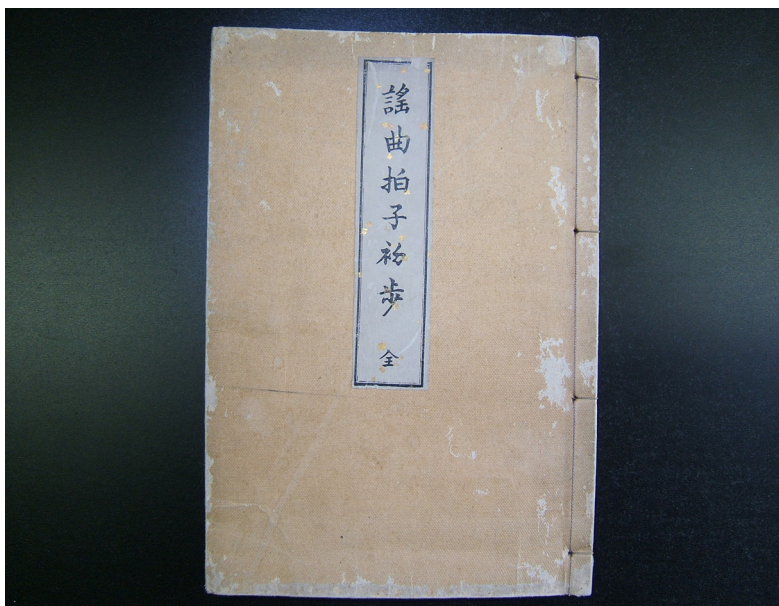


## 大倉六蔵 『謡曲拍子初歩』

小鼓方が書いた、拍子謡の技術書。八割上の字配りについて、上句の相互の文字の間隔が均等になるように書かれている。これが「持ち合う」という用語で示される。上句が「持ち合」った書き方は、後に音響学者田中正平が平ノリをモデル化する際の規範となった。句の途中に長く引きが入る謡い方について、「鼓謡とて賤しむなり」と述べ、「持ち合」の重要性を繰り返し返し解く。升目の線上ではなく升の中心位置が拍の当たる位置になる表記方法は、『八拍子』（9頁）に同じ。



標題 内題…謡曲拍子初歩

標題紙…謡曲拍子初歩

奥附…

その他…謡曲拍子初歩（序文・巻末）、謡

曲拍子初歩 全（題簽）

著者 奥附…大倉六蔵

その他の場所…大倉六蔵（標題紙・序文）

出版 版次…第一版

出版地…東京

出版社…江島伊兵衛（印刷・発行）

出版年…明治36（1903）

その他の場所…序文 明治36（1903）

形態 冊数…一冊 頁数…二二丁

寸法…23×16（cm）

状態 写本版本の別…版本 現物複写の別…現物

備考 椀屋 江島蔵板（標題紙）。